

「神戸電鉄粟生線の更なる利用促進に向けたアンケート」の
回答内容の整理について

標記アンケートの回答について、その内容に応じ次のとおり分類した
(本資料においては、分類の都合上、回答要旨としている。)

このアンケートの回答内容については、「神戸電鉄粟生線地域公共交通
網形成計画」の数値目標の達成に向けた取組につなげるほか、令和3年度
中に策定する新たな「神戸電鉄粟生線地域公共交通計画」にも利用促進策
として規定するなどして、活用することとする。

1 車両について

- ・前向き座席の車両の導入
- ・外向き座席の車両の導入
- ・ラッピング車両の導入
 (例) 子どもが乗りたくなるラッピング
 沿線市をPRするラッピング
 交通安全運動ラッピング
 マニアが興味をそそるラッピング
- ・インパクトのある車両や話題性のある車両の導入

2 駅及び駅前空間について

- ・駅前空間の快適性や魅力を向上するとともに、サイクリングと連携した環境整備を行う。
- ・駅前を明るくする街灯の設置
- ・駅的美装化の際、単なる修繕ではなく、デザイン性のあるものとする。
- ・駅舎におけるギャラリーの展示
- ・血圧計の設置による健康相談の実施
- ・地域住民による駅的美装化運動の活性化

3 サイクリングとの連携について

- ・自転車活用推進法、自転車活用推進計画、北播磨サイクル&フットパス推進事業に基づき、サイクリングとの連携を推進し、鉄道とサイクリング等を掛け合わせた粟生線の価値向上を図る。
- ・サイクリストの休憩拠点の整備
- ・サイクリング拠点としての環境整備

- ・サイクリングルートを紹介する案内板の設置
- ・サイクルラックの設置
- ・サイクリングによるスタンプラリーの実施
- ・ルート開発やルートマップの作成
- ・サイクルトレインの運行
- ・サイクリングと観光地などを組み合わせた地域活性化

4 まちづくりについて

- ・公共交通を利用するまちづくりや交通ネットワークの構築
- ・公共交通を利用できる「環境づくり」の推進
- ・駅を中心としたまちづくりの戦略的な実施
- ・まちづくりと一体となった事業の実施
- ・駅周辺の高度利用化
- ・市街地化の促進
- ・地域ごとに特色のあるまちづくりの推進
- ・車窓からの美しい景色を保ち、形成し、人々の心に訴える。
- ・商業施設の増設

5 モビリティ・マネジメント及び地元団体や他団体との連携について

- ・市や教育委員会と連携したモビリティ・マネジメントなど、若い人から意見を聴取する場を設ける。
- ・公務や通勤時の公共交通利用や企業に対する公共交通利用の呼びかけの実施
- ・神戸電鉄による講演会の開催
- ・協議会を構成する他団体との連携を図るとともに、主体的な利用促進活動の実施及び協議会における主体的な取組内容の報告の観点から、協議会においては各団体から取組内容等を報告
- ・地元団体等への支援の継続
- ・地元主体の粟生線利用促進活動の啓発
- ・地元団体の発掘及び連携

6 イベントについて

- ・沿線事業者と連携した長期継続のイベントなど、継続性があり、内容の濃いイベントの開催
- ・食や観光をテーマとしたイベントの検討（例えば、酒造と山田錦がコ

ラボしたイベントなど)

- ・ 大人も子どもも楽しめるイベントの開催
- ・ J R 加古川線・神戸電鉄粟生線・北条鉄道利用促進協議会など、他団体のイベントとの連携
- ・ 沿線外からの粟生線利用が得られるような、また、新たな粟生線利用者を獲得できるようなイベントの開催
(スタンプラリー、フォトコンテストの展示会、鉄道模型の走行会、神戸電鉄グッズの販売、まつりや催事等への積極的な参画、イベント列車、臨時列車の運行など)

7 企画乗車券及び乗車運賃等について

- ・ 企画乗車券を企画する際には、高等学校等の協力を得て若い年代と一緒に行う。
- ・ 沿線外からの粟生線利用が得られるような、また、新たな粟生線利用者を獲得できるような企画乗車券の発売
- ・ 鉄道、バス及び観光施設等が一体となった企画乗車券の検討
- ・ 乗車すればするほど運賃が下がるようなお得な制度の創設
- ・ 高齢者運転免許自主返納サポート協議会に加盟し、対象者に運賃の割引やお得な回数券の販売などを実施
- ・ 免許証返納者に対するポイントの付与
- ・ 運転経歴証明書を駅の窓口で提示すれば、回数券をプレゼントする。
- ・ 土日は無料、子どもは無料など、家族での利用機会の増加を図る。

8 周知・P Rの方法等について

- ・ S N Sによる情報発信
- ・ 駅や沿線施設におけるイベントの周知・P R
- ・ 駅における観光施設等へのアクセス情報の周知・P R
- ・ 沿線外、粟生線の新規利用者、鉄道ファンが集まるような周知・P R
- ・ 「とりあえず乗りましょう」といった周知・P Rは回避する。
- ・ 沿線地域の食や観光のP R、急勾配や美嚢川にかかるカーブのある鉄橋をP Rするほか、コロナ対策の実施状況や混雑がなく空気がきれいな沿線地域などの安心安全の周知・P R

9 協議会の在り方などについて

- ・ 粟生線は地域全体が恩恵を受ける共有財産であるとの認識を共有し、

交通事業者、自治体及び地域住民による連携・協調体制を築く。

- ・ 粟生線の維持・運営に対するしっかりとしたサポート（政策的な裏付け）を行う。
- ・ 粟生線の将来に対する展望を持ち、サポート体制の構築に向けた経営政策的な議論を行う。
- ・ 首長クラスによる会議体を立ち上げ、経営政策的な議論を行い、計画に反映させる。
- ・ 経営の観点から現状に即した議論を行う。
- ・ 将来の展望やビジョンを共有する。
- ・ 路線の存続という最終目標に向けた決定打を得るよう、将来の展望を早急に示す。
- ・ 「乗って残そう」の具現化に向けた実りある議論の実施
- ・ 市民委員も積極的に発言できるような会議の進行や雰囲気づくり
- ・ 市民意見も考慮した実効性のある施策の実施
- ・ 報告するだけの会議にしない。
- ・ 委員が一体となって行う活動を増やす。
- ・ 実施団体の主体性が薄くならないようにする。
- ・ 実施団体が自ら取組内容を説明する。
- ・ ワーキンググループ等で、取組に対する課題や連携方法を議論する。
- ・ イベント等による一過性の利用促進はしない。
- ・ 目標や取組が粟生線の維持存続に向けて適切かつ効果のあるものとなるようにする。
- ・ 策定した目標は必ず達成するとの意識を持ち、各主体がきめ細かくPDCAを回し、具体的に行動する。
- ・ 粟生線や粟生線を幹とした公共交通ネットワークが機能しているから、沿線地域の将来が拓かれるという意識を皆が持つ。
- ・ 地域における輸送資源の総動員を行う。
- ・ 地域の力を最大限に生かした公共交通ネットワークの構築
- ・ 観る（絶景）、食べる（地場産品・グルメ）、買う（土産）など、粟生線再発見の推進（「あるもの」の発掘・再発見）

10 その他

- ・ 市営地下鉄や他の鉄道会社との連携